

地域住民の力の結晶

ときどんの池 自慢の施設・景観群

広大な湿地帯を、4年がかりで整備した「徳山自然観察公園ときどんの池」。

この公園を整備するにあたって、一番の目玉と考えたのが「水辺環境」。井戸や水路を整備し、池に水を引き、生物が棲む環境を目指した。池には鯉や川魚を放ち、周囲には木製の東屋、水車、遊歩道を整備した。特に水車は、製作に3カ月を要した自慢の一品。各施設とも、ほとんどの部材は地元で調達。経費を抑えた。



1 水車・遊歩道・東屋

2 ホタルの飼育

いずれは昔のようにホタルが舞う光景を取り戻したいと、ホタルの飼育・保護を進めている。「ときどんの池ホタルを育成する会」を結成して約10年、全国のホタル保護先進地に向いて話を聞き、飼育に適した環境について研究を重ねてきた。現在では、池の周りや公園横の小川にホタルの姿が戻りつつある。公園脇にはホタル飼育用のハウスを整備し、ホタルの定着を

3 グラウンドゴルフ場

池の横には残土処理場を兼ねた芝のグラウンドゴルフ場を整備。休日平日を問わず、地区の大人たちが集い、楽しそうにプレイする姿がある。地元の小学校がグラウンドゴルフ体験に訪れることも。

4 炭焼き小屋

池を浄化するための炭を



藤棚の整備

3 グラウンドゴルフ場



2 ホタルの飼育ハウス

5 ブルーベリー園

6 キシヨウブの群生

昔、田んぼのあぜ道に咲いていたキシヨウブの花は、現在では、池のほとり一面に咲き誇る一大群生地となった。公園の脇を走る大井川鐵道のSLと、キシヨウブの群生は、この自慢の景観の一つ。5月中旬ごろになると町内外はもとより、他県からもアマチュアカメラマンが訪れ、カメラ



6 キシヨウブの群生



アイガモの飼育

焼こうとしたのが発端で、炭焼き小屋を整備した。ここは年6回、小学校の課外授業にも活用され、児童たちが炭焼きを体験している。

5 ブルーベリー園

園の入口に設置された料



週末には必ずと言っていいほど子ども姿がある公園です。管理する方も張り合いです。

川本孝さん (炭焼き小屋担当)

わたしは主に、ときどんの池の「炭焼き小屋」の管理を任されていました。木炭は、水を浄化する作用があることから、ここで炭焼きを始めようという話になったんです。

この炭焼き小屋は、地元の小学校の課外授業にも使われています。わたしが講師となって、子どもたちに教えていたんです。今では地区の若い人たちが、講師を務めています。

このときどんの池は、週末には必ずと言っていいほど子どもたちの元気な姿があります。地区内外からもたくさんの方が訪れてくれ、とてもうれしく思っています。管理するわたしたちも張り合いがあるというものです。



4 炭焼き小屋

第9回ふるさと山村フォトコンテスト優秀賞受賞 (平成12年)

徳山区では、国土庁(現国土交通省)が主催する、美しい地域景観を撮影したフォトコンテストに、ときどんの池の風景写真を応募。厳正な審査の結果、応募994作品の中から、見事優秀賞(20作品)に選ばれた。

特集 地域への愛着心

荒廃農地を再生し、住民憩いの場を創造した徳山区に見る地域愛着心